

おはようございます。

今年の8月15日で終戦後75年を迎えます。この戦争のとらえ方については世代によって大きく違うと思います。

私が子どもの頃は、まだ土を掘れば焼けた瓦が出てきたり、学校では戦時教育を受けた厳しい指導をする先生方がたくさんおられました。二見中に採用されたときも徴兵検査を経験した先生が同僚としておられました。長田神社に初詣に行くと戦争で傷ついた人が立っていて、お金を無心し、怖かったのを覚えています。ですから戦争は体験していませんが、戦後20年ほどたっても、意外と身近に戦争を感じるものは、まだ少し残っていました。

しかし今、戦争を感じるものも、知る人もどんどんいなくなっています。20歳前後で最前線で戦った人もすでに95歳。もう存命されている方は数えるほどしかおられません。

皆さんは日本を平和的な国家だと思っているかもしれませんが、1868年に明治になって26年で日清戦争、10年後日露戦争、そのまた10年後、第一次世界大戦、その約20年後、日中戦争～太平洋戦争と、日本は明治以降、10年から20年のサイクルで戦争をしてきました。ですから75年も戦争をしていないのは近代日本の新記録であり、努力の賜物なのです。なぜそれができているかということ、悲惨な戦争を語り継いで、忘れていないということ。そしてまだわずかでも戦争体験者がいるからです。その人たちの言葉は強さと説得力がある。でもそんな人がいなくなった時。私はその時が日本の分岐点であると考えています。そしてそれは君たちが大人になった時です。

何をやってはいけないかと言うと、戦争ほどやってはいけないものはありません。私たちも戦争を語り継がないといけません。今沖縄ではひめゆり部隊の悲劇を語り継ぐ若者が出てきています。今朝の神戸新聞にも広島原爆を語り継ぐ姫路市出身の女性の話が出ていました。体験していないと語ってはいけないのであれば、どんなこともやがて話せなくなってしまいます。「知ること、語り継ぐこと」。私たちにはこれしか残されていません。

お盆、8月15日正午の黙祷。私は子どもの時から続けています。戦争は「いけないこと」です。しかし、ただ「いけないこと」という観点だけでは深い学びになりません。どうか皆さんも深く戦争のことを学んで、75年前、亡くなった方々のためにも、戦争のない、平和な国が続いていけるよう努力できる人になってください。

1学期も夏休みも短いので、今日はお盆に向けての話をさせてもらいました。
2学期また頑張りましょう。 以上です。